

文部科学大臣杯・国土交通大臣杯
国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2025 実施報告書

実行委員長 佐藤 公俊
(一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟理事)

はじめに

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会は、全国の連盟登録ジュニアヨットクラブと海外チームのジュニアセーラー達が一堂に会して、日頃鍛えた帆走技術とシーマンシップを競い合いその向上を図るとともに、海外チームとの交流により国内ジュニアセーラー達が国際感覚を磨き、その視野をひろげ、また地元地域の子供たちとの触れ合いを通して健全な水辺スポーツとしてのヨットを啓蒙普及させて、生涯スポーツとしてのヨットの発展に貢献することを期して当連盟が主催して毎年実施しています。

本競技会は文部科学大臣杯、国土交通大臣杯が授与される国内唯一の大臣杯タイトルレースです。また一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟(以下 JJYU)の名称、設立趣旨にもありますようにクラブとして参加頂いて、クラブ対抗レースの上位クラブには連盟の主催する海外セーリング研修参加資格を授与するという会長特別賞を設けており、ジュニアヨットの普及とクラブ同士の親睦、そして国際交流を目的に開催する競技会です。

本年は海外から招待のオーストラリア・韓国・タイランド・ニュージーランド4チームと国内は東北・関東から8クラブ及び1高校ヨット部が参加して、7月25日から27日まで神奈川県立葉山港にて競技会を開催しました。海外4チーム・国内7クラブ・1高校ヨット部の選手81名、指導者・保護者88名を迎え、運営役員38名を合わせて総勢207名の規模となりました。

競技会参加者全員による携帯電話ラインオープンチャットを使用して、競技会期間中の連絡、レース結果報告等を行うことによりコロナウィルス感染対策を実施しました。競技会期間中は感染発症・事故等もなく無事競技会を終了する事ができました。



葉山港風景

練習会

競技会レースに備え7月25日は練習会としてトライアルレースを実施。役員によるレース運営体制の確認を行い本レースに備えました。参加選手は本レースさながら80艇となり、練習としては良いトライアルレースをおこなう事が出来ました。

開会式

開会式は神奈川県立葉山港管理棟3Fの講習室にて選手、指導者、大会役員の方々もご参集頂き、予定通りに開催する事が出来ました。

神奈川県セーリング連盟理事長藤田時彦様の競技会開会宣言、JJYU 石原伸晃競技会会長挨拶、恒例の少年ヨット憲章「山中湖宣言」を石原伸晃会長立会いの下、いわきジュニアヨットクラブ（鷺綾士、吉田玄輝、近莉良、木村磨日向選手）の4名が力強い言葉で表現してくれました。続いて夢の島ヨットクラブ(三浦大城、山村南菜選手)の2名が選手宣誓を立派に行ないました。

ご来賓としてNPO法人神奈川県セーリング連盟名誉会長貝藤和昭様よりご祝辞も頂きました。

開会式終了後に立教大学ヨット部 OB 井上義郎様を講師にお招きし安全講習会を行い、次に小野澤秀典レース委員長が競技運営説明会を行いました



安全講習会

国際交流会

国際交流会は開会式会場に皆さんでテーブルと食事を設定して、参加者は食事を楽しみながら、海外チームとの記念品交換、各クラブの紹介などなごやかに繰り広げられました。

ここ数年はアトラクションや催し物等が無かった為、食事と選手・保護者・指導者・大会役員同士の交流に特化した交流会でしたが、今年はアトラクションとしてフラダンスチーム「ケアラウラオカラニフラハウ」20名が一時間にもわたるフラダンスショーを披露していただき、例年以上に賑やかで楽しい国際交流会となりました。



石原会長挨拶



国土交通大臣杯返還



山中湖宣言



選手宣誓



来賓ご挨拶



フラダンスショー



みんな一緒に



オーストラリアチーム



タイランドチーム



ニュージーランドチーム



韓国チーム

A 海面のレース状況

A 海面では OP 級上級者クラスに 11 クラブから 46 名・ILCA4 に 4 クラブから 5 名・国際 420 級に直前キャンセルが 1 高校でしたが早稲田学院高校ヨット部から 6 名、合計 57 名の選手が参加しました。海外チームは OP 級上級者クラスにオーストラリアチーム 2 名・韓国チーム 2 名・ニュージーランドチーム 3 名・タイチーム 2 名、合計 9 名の選手が参加。ILCA4 ではオーストラリアチーム 2 名・韓国チーム 1 名・タイチーム 1 名、合計 4 名の選手が参加しました。

今回の A 海面レースは神奈川県セーリング連盟の全面的な協力をいただきながら実施しました。

26 日(土)、27 日(日)ともに気温が 35 度以上になると予想されていましたが、昼食のためのハーバーバックを行わない予定であったため、選手たちは海上で水分の補給を十分に取るようにしました。

レース初日(26 日)は南西から風が吹き始めたので 9 時半過ぎに出艇し、国際 420 級・ILCA4 はソーゼージコース、OP 級上級者クラスはトラベゾイドコースで、国際 420 級 10 時 35 分・ILCA4 10 時 42 分・OP 級上級者クラス 10 時 49 分にそれぞれ第 1 レースをスタートしました。その後はコンスタントに 10~11kt の風が吹いていたので続けて 2 レース、合計 3 レースを実施しました。太平洋沖合の台風 9 号の影響で海面は南から大きなうねりがあり、それほどスピードも出ず OP 級の選手達はタフなセーリングになっていました。

レース 2 日目(27 日)も南西から風が吹き始めたので 9 時半過ぎに出艇し、国際 420 級・ILCA4 は 10 時 35 分・OP 級上級者クラスは 10 時 43 分に第 1 レースをスタートしました。風は 11~15kt と前日より強く海面も引き続き大きなうねりがあり厳しいレースコンディションでしたが、各選手は苦勞しながらもうまく艇を乗りこなしていました。この日は 13 時以降レースができないこともあり OP 級上級クラスは 13 時 00 分ギリギリで 6 レース目をスタート。3 クラスともどうにか合計 3 レースを行い、2 日間で 6 レースを実施することが出来ました。神奈川県セーリング連盟による素晴らしいレース運営の成果です。

2日間のレースの中で、ILCA4はタイのポラムット選手と韓国のウジュン選手が二人で1,2を独占するデッドヒートな展開でしたがポラムット選手が第1位を獲得。国際420級は同じ高校ヨット部内での戦いでしたが、江川選手・小林選手（男女ペア）が第1位を獲得。

OP級上級クラスでは昨年と同様に夢の島ヨットクラブの中村選手と江東区立小中学校セーリング部の上條選手が激しくトップを競っていましたが、今年の中村選手に軍配が上がり第1位を獲得。昨年第1位の上條選手は2点差で第2位。第3位は夢の島ヨットクラブの三浦選手となりました。

昨年に続き今年も7月下旬に競技会を実施しました。猛暑と大きなうねりの中での6レースでしたが、熱中症や怪我もなく無事に終了することができました。神奈川県セーリング連盟の卓越したレース運営と参加選手保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。



国際420級・ILCA4のスタート



OP級上級クラスのスタート



上マーク回航



上サイド



フィニッシュ

B 海面のレース状況

B 海面では OP 初級者クラスに 6 クラブから 23 名の選手が参加しました。

レース初日（26 日）は気温が 35 度を上回る猛暑で、風力は 11kt～14kt の南風で若干 OP 初級者には強めの風でした。レースエリアの逗子湾では、太平洋沖合の台風 9 号の影響で南から比較的大きなうねりの中で 10 時 50 分にレースが始まりました。初日は 2 レースを行い 23 艇が出走しましたが、中には 1 周のコースが帆走できない選手もいて 8 隻～10 隻が DNF・RET になりました。

レース 2 日目（27 日）はレースコースを逗子湾の岸寄りに移して、うねりはありましたが南風が弱まったので 10 時 35 分から 12 時 45 分の約 2 時間で 4 レースを実施しました。

2 日間ともに猛暑の中、まずまずの風の中、結果 6 レースを実施することができました。選手は自分の体力と技術を駆使して、うねりを乗り越えてフィニッシュを目指しましたので満足したようでした。

優勝者は江の島ヨットクラブジュニア・小学 5 年の野村選手でした。



スタート



フィニッシュ手前のトップ艇



フィニッシュ前のデッドヒート

海外招待チームの状況

7月25日練習会前に海外チームへチャーター艇を提供。選手・コーチ・父兄とテクニカル・チャーター艇委員がチャーター艇備品をチェックして、各選手はそれぞれ艀装を開始。予定通り練習会に参加してトライアルレースを楽しんでいました。

7月26、27日のレースでは支援艇に乗船した海外チームコーチ・保護者が海外選手のセーリングを観戦、当競技会をとっても楽しんでいました。競技会終了後各国コーチ・保護者から、今回競技会に参加した選手はレースのみならず日本選手との交流でとても喜んでおり、来年もぜひ参加したいとお言葉をいただきました。

医療救護部 総括

競技会期間中の気温は35度を超えていましたが、熱中症になった選手、怪我をした選手は一人もなく安全に競技会を開催できたと思います。

閉会式

競技会3日目も良い風に恵まれ全てがスムーズに進み、艇の片づけや帰り支度も済みましたが16時の予定より15分遅れての開始となりました。

小野澤秀典競技会レース委員長より成績発表・表彰に移り伊藤雅宣競技会副会長より特別表彰の小澤吉太郎特別賞を藤沢市青少年セーリングクラブの小林秀選手に授与、引続き団体（国内・海外）・個人（国内・海外）と表彰させて頂きました。斉藤英明競技会プロテスト委員長からはレース講評を頂きました。

海外チーム指導者代表として、艇のトラブル発生時に即座に危険を察し飛び込んで安全確保した New Zealand Youth Sailing Team のコーチにご挨拶を頂きました。競技会からお礼の記念碑を差し上げました。

最後に出席者全員で競技会が無事終了出来た事に対して、お互いへの敬意と感謝をこめて「ありがとうございました」という言葉で閉会式を終えました。

関係者の皆様のお蔭で大会が無事予定通りに終える事が出来た事に改めて感謝申し上げます。



小沢吉太郎特別賞



レース講評

海外チーム代表挨拶

主な成績

1.JJYU 特別表彰

①小澤吉太郎特別賞 小林 秀 藤沢市青少年セーリングクラブ

②団体表彰 国内クラブ対抗レースの上位3クラブに JJYU 主催の海外セーリング研修参加資格を授与し、海外渡航費の一部を援助します。

第1位 夢の島ヨットクラブ

第2位 葉山町セーリング協会

第3位 江東区立小中学校セーリング部

③団体表彰 クラブ対抗レースで最高順位の海外チーム

Yacht Racing Association of Thailand

2.個人表彰

①OP 級上級者

第1位 中村 海翔 夢の島ヨットクラブ 文部科学大臣杯と賞状授与

第2位 上條 正弘 江東区立小中学校セーリング部

第3位 三浦 太輝 夢の島ヨットクラブ

第4位 平澤 海翔 江東区立小中学校セーリング部

第5位 今井 晴也 葉山町セーリング協会

第6位 伊藤 照真 江東区立小中学校セーリング部

②OP 級初級者

第1位 野村 厚太 江の島ヨットクラブジュニア 国土交通大臣賞杯と賞状授与

第2位 坂上 雄誠 葉山町セーリング協会

第3位 中村 翼 江東区立小中学校セーリング部

第4位 田淵 隼矢 葉山町セーリング協会

第5位 吉田 玄輝 いわきジュニアヨットクラブ

第6位 山村 晟 夢の島ヨットクラブ

③ILCA 4

第1位 吉田 寿貴 いわきジュニアヨットクラブ NPO法人神奈川県セーリング連盟会長杯授与

④国際 420 級

第1位 江川 聖和・小林 和奏 早稲田大学高等学院ヨット部

NPO法人神奈川県セーリング連盟会長杯授与

第2位 谷口 英朗・近重 幸士朗 早稲田大学高等学院ヨット部

第3位 齊藤 瑞人・棚橋 漣 早稲田大学高等学院ヨット部

3.国際交流個人表彰

①海外参加選手 OP 級上級者

第1位 Minseo Ko	Chonnam Sailing Federation	JJYU 会長特別杯授与
第2位 Prin Kantharak	Yacht Racing Association of Thailand	
第3位 Tim Stuart	New Zealand Youth Sailing Team	

②海外参加選手 ILCA 4

第1位 Poramut Srisawaddisrilodom	Yacht Racing Association of Thailand	JJYU 会長特別杯授与
第2位 Woojun Yim	Chonnam Sailing Federation	
第3位 Zachariah Chu Hin Lee	Royal Perth Yacht Club	



クラブ対抗上位チーム



クラブ対抗1位の海外チーム（タイランド）



OP 級初級者



OP 級上級者



国際 420 級



海外参加選手 OP 級上級者



海外参加選手 ILCA 4